

山形県の花

紅花 (べにばな)



満開の紅花畑

紅花は、中近東が原産のキク科の一年草です。この美しい花から赤の色素が生み出されることはあまり知られていません。

春に種を播いた紅花は、半夏生（今年は7月2日）のころ花が咲きはじめ、7月中旬にかけて満開を迎えます。黄色い花に日を追って赤が差すと、花摘みが行われます。摘んだ花卉はその後、江戸時代と変わらない工程を経て、染色用原料の「紅餅」になります。

山形では室町時代末期には紅花が生産されており、江戸時代には「紅花は^{もがみ}最上山形の産をもって最良をなす」と高く評価されていました。現在も紅花から染色用原料の「紅餅」に加工する伝統的な技術を継承し、伝統的な衣装や化粧紅などに使われる美しい「赤色」を守っています。

最上川流域の伝統的な紅花生産は、平成31年2月、日本農業遺産に認定されました。認定により、紅花の価値に誇りを持ち将来に継承する機運が高まっています。

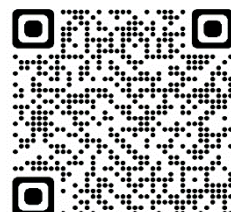


染色用原料「紅餅」



小学生の摘み取り体験の様子

山形県紅花振興協議会
HPはこちら



山形県紅花振興協議会